

### 英国、北部イングランドの泥炭地修復のための助成金を拠出

2018年5月15日付けの、Defra（Department for Environment, Food & Rural Affairs-環境・食料・農村地域省、以下環境省）のプレスリリースによると、北部イングランドのピークデイストリクト国立公園の黒い丘とよばれている荒れた\*PEATランド（Peat land、以下、泥炭地）の修復のため、1000万ポンド（15億円）の助成金拠出を発表した。



ピークデイストリクト国立公園の黒い丘と呼ばれている泥炭地の沼地

泥炭地や沼は、野生生物のえさや巣を提供する重要な生息地であり、保水や水質の改善、気候変動に関与している。新しい資金は、北部イングランドにおける荒れた泥炭地の修復のために新たな野心的な枠組みを創出するための、政府の25年環境計画の主要なコミットメントの一つである。

今回、修復を目指すエリアは6,580ヘクタールの泥炭地と沼地で、総面積は10,613面のサッカーピッチに相当する。この作業は、4つの地域パートナーシッププロジェクトを通じて実施される。泥炭地でのCO2貯蔵力を高めることにより、温室効果ガスの大気への排出を削減する効果がある。これによって、CO2を年間23,000トン貯蔵し英国の気候変動対策の目標に寄与する。

専門家パネルと関係者が各プロジェクトを評価し、CO2削減の可能性に基づいて資金を拠出した。コフエイ環境大臣は、「泥炭地は、野生生物の生息地であるだけでなく、きれい

な水を提供し、CO2 の排出を削減するために役立ち、イングランドの景観の象徴的な側面でもある。25年環境計画では、泥炭地を復元させるという政府のコミットメントが示されており、これにより、泥炭地が継承され環境を良くすることができる」と述べている。



泥炭地の地層を掘り起こすと柔らかいPEAT層が現れる

\*PEAT (Peat)とは、ヒース (Heath)というスコットランドや北部イングランドの原野に多い野草や水生植物などが、炭化した泥炭（炭化のあまりすすんでいない石炭）である。PEATはモルトウイスキーの香りの特徴づける重要な材料であり、PEATの煙で麦芽を乾燥させ、そのいぶした香りが麦芽につくことによって、ウイスキー特有のスモーキーな香りが生まれている。(Web 情報より)

環境省は、地元の4つのプロジェクトに合計1,000万ポンドを割り当てている。例えば、ヨークシャー・ワイルドライフ・トラストが率いる北部イングランドの泥炭地パートナーシップでは、北部イングランドの21の泥炭地にある低地の沼地394ヘクタールとそれ以外の泥炭地1679ヘクタールの復元を見込んでいる。

別のパートナーシップであるムーア・カーボン、ピークデイズトリクト国立公園の西側で保全作業する予定である。サラファウラーCEOは、「私たちはDefraからこの資金を供与されたことを嬉しく思っている。このプロジェクトは、国立公園内の西側2,100ヘクタールの泥炭地や沼地の保全作業を提供する。この作業で、年間CO2を4,500トン削減するのに役立つだろう」と述べている。

政府の目指す気候変動目標を達成するため、CO2貯蔵だけでなく、この革新的なパートナーシッププロジェクトは人と国立公園内の生物の両方に豊かな恩恵を与えるだろう。それらは、消費する水の質を向上させるのに役立ち、希少な鳥や哺乳類の貴重な巣を増強することも出来る。むき出しの泥炭の再植生と荒廃した岩礁の岩塊を防ぐことは、雨が降ったときに水の流れを遅くするのに役立ち、地元ビレッジの洪水の脅威を軽減することも出来る。

今回、4つのパートナーシップは協力して、このような素晴らしい泥炭地保全に力を注ぐことは、それが次世代のためになることが期待されている。

ヨーロッパの国々では、比較的最近に泥炭は再生可能エネルギー源と認めているところがある。例えば、フィンランドやスウェーデンは2008年に、エストニアやロシアは2016年と認知は比較的最近である。英国のスタンスは荒れた泥炭地を修復して、できるだけCO<sub>2</sub>の自然排出を抑え、国としてのCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献させると言うものである。日本では北海道に多いと言われている泥炭地の修復事情はどうか、気になるところである。(了)